

令和8年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修レポート 抜粋

1	私の施設では、子どもがスマホやパソコンを使う機会がないので関係のない話かと思ったが、子どもの日常生活に深く関わっていて、デジタル面のSOSがないか気にかかる必要があると感じた。変化に気付くためには、知ることが大事であり、子どもの関心があるアプリであれば、実際に私もダウンロードをして体験し、リスクを把握・子どもと共有・万が一の逃げ場になりたいと思う。支援員同士でも情報共有をしたい。
2	今の子どもたちはゲームや動画視聴でインターネットに触れている時間が長く、詐欺などのトラブルに巻き込まれる可能性が高いことが分かった。放課後児童支援員として子どもたちの様子に気を配り、今どんなゲームをしているかやどんな動画を見ているか普段の会話から聞き出しネットのルールについて一緒に考え、また何か怖いことや困ったことがあったらすぐ周りの大人に相談するように伝えたい。生成AIを信じすぎないようにすることも気をつけたい。
3	最近、子どもたちの会話でよく聞く言葉が「早く帰って、ゲームがしたい」や「YouTubeが見たい」です。普段は外遊びや教室で遊んで楽しく過ごしていたのに、この言葉を何度も耳にすると少しさびしくも感じます。これがもう一つの放課後なんだと、考えさせられました。 ただ、これから子ども達にはネットトラブルに巻き込まれないように、子どもの少しの変化に気づいてあげることや、保護者との会話からもゲームの依存性があるか、ルールの悩み事があるか、それとなく声かけをしていこうと思いました。そして本科目で学んだ、いろいろな防衛対策を子どもたちや保護者の方に伝えていきたいです。
4	学童の子供たちや私自身の子供も含め、近くに端末が無いと落ち着かない世代であり、急激に生活の中に入ってきている感がありました。 生成AIも便利だと思っはいますが、子供たちは対話型のAIを友達のように感じ、共感してくれるからと無防備に個人情報を出してしまう。そんな子供たちを守るのは大人だと思います。 分からない事は子供たちに聞き、フィルタリングも使いつつ一緒に使用方法を考えていく姿勢で子供たちを守っていこうと思いました。

5	今回の研修では、子供たちのインターネット・スマホ環境を改めて知ることができました。スマホ・タブレットも親の物を使うことによって、低年齢化していったこともわかりました。動画配信やSNSへの書き込み。「みんながやっているから大丈夫」という思い込み。危険が伴う事がわからない。やはり、使う前に親子でしっかりと話し合う事、ルール決めが必要。もし何かあったらすぐに大人に相談できる環境づくりも大切だと思いました。なかなか、追いついていくのも難しいデジタル化問題ですが勉強になりました。
6	ネットとは、特別なものではなく、日常の居場所として考えていかなければならないということが分かりました。そのために、大人が子どもをどう守っていくか、子どもと話し合いをして理解し、使ってもらうことが大事だと分かりました。安易な考えで、トラブルに発展してしまった時にも、自分で何とかしようと思わず、親に直ぐ話をすることが出来れば、直ぐに対応して、最悪な事態を防ぐことが出来るのです。ネットをやらせないのではなく、ルールを決めて話し合い、上手に使うことが出来ればいいのだと分かりました。